

「地獄」と「極楽」

2025.4.14 校長 西谷 秀幸

今日は「地獄と極楽」という昔のお話をします。「極楽」というのは、日本や中国など一部の国での昔の言い方で、「天国」のことです。では、「地獄」とは、どんなところだと思いますか。

ある人が、「地獄」とはどんなところなのかと思い、見に行くことにしました。「地獄」に着くとちょうど食事の時間でした。そしてなんと、「地獄」なのに、テーブルには、おいしそうな食べ物がたくさん並んでいたのです。

そこに、やせ細った「地獄」の人たちが入ってきて席に着きました。見ると、目の前に2 m近くある長いお箸が置いてありました。「地獄」では、それを使って食べなくてはならなかったのです。

「地獄」の人たちは、おいしそうな食べ物を他の人に取られてたまるか…とその長いお箸を使い、他の人より先に食べようとしました。しかし、お箸が長すぎるため、食べ物が口に届きません。さらに、長いお箸がテーブルの上でぶつかり合い、食べ物は下に落ちてしまいました。そして、とうとう食事の時間が終わりになってしまう、誰一人として食べることができませんでした。

次に、その人は「極楽」に行ってみました。

すると、「極楽」もちょうど食事の時間でした。そして、「地獄」と同じように、おいしそうな食事がたくさん並んでいました。そこに、楽しそうな表情で、すごく健康そうな人たちが入ってきて席に着きました。そして、「地獄」の人たちと同じように、長いお箸を使って食べ始めました。

「地獄」の人たちは、長いお箸のせいで一口も食べられませんでした。が、「極楽」の人たちは、「これはおいしそうな食事ですね。お一ついかがですか。」と言って、目の前にいる人に食べさせてあげていました。そして、食べさせてもらった人も「とてもおいしいです。あなたもいかがですか。」と、お返しに相手の口に食べ物を運んであげました。こうして、楽しく会話をしながら、お互いに食べさせ合うことでおいしい食事をすべて食べることができ、楽しく食事の時間を過ごせたのです。

さて、今の話を聞いて、「地獄」と「極楽」の違いが分かったでしょうか。「他人のことを考えずに、自分だけが良い思いをしようと行動している」のが「地獄」、反対に、「他人のことを思いやって、共に支えながら楽しく行動している」のが「極楽」です。

「地獄」と「極楽」は、大きな違いがあるようで、実は、ほんの少しの違いしかなく、その違いは「私たちの気持ちの持ち方」つまり、「私たちの心の中」にあるのです。

さて、皆さんは、自分のクラスを「地獄」のようなクラスにしたいですか。それとも、「極楽」のようなクラスにしたいですか。

始業式の日、「誰かに何とかしてもらうのではなく、自分たちのこの手で、楽しいクラスを作って、楽しい学校生活を送りましょう。」という話をしました。

自分たちのクラスを「極楽のような楽しいクラス」にするためには、一人一人がどんな行動をすれば良いか、ぜひ、クラスでも話し合ってみてください。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

始業式・入学式をはじめ、第1週、お疲れさまでした。もう何週間も過ぎた気分ですが、まだ2週間目に入ったばかりです。年度の始まりで、あれもしなくてはこれもしなくてはという状態だとは思いますが、焦らず、1つずつクリアしていきましょう。

なお、今週は「生活規律」と「学習規律」の確立を最重点にすると良いでしょう。そして、「朝の会・掃除・給食・帰りの会」の4つを丁寧に指導することが大切です。朝の会・帰りの会で、時間が長くなるのはNGです。短時間でテンポ良く進めていくと、生活規律の確立がスムーズに確率していきます。心掛けてください。

また、今週は、保護者会もよろしくお願ひします。保護者会については、私も担任時代にいろいろと悩みました。仕事を休んで出席してくださる方も多々いる中、資料を読んで伝えるだけだと出席率が低下していきます。

保護者会は、保護者同士の横のつながりを作ることも大きな目的の1つです。前任校の若手研修会で梅木先生が「『子供の話』ではなく、『自分の話』をさせるようにすると保護者同士がお互いの悩みを相談し合えるようになり有効である」ことを話していました。また、「家庭での子供の様子を一番良く知っているのは保護者」だが、「集団（学校）での子供の様子を一番知っているのは教員（担任）である」ことを伝え、良いとアドバイスしていました。4月は、伝達事項や役員決めなどで時間の余裕がないとは思いますが、ぜひ、可能な限り工夫してみてください。

なお、最初に自己紹介をする際は「もし1日が25時間だったとしたら、その1時間で何をするか」ということを付け加えてもらうのも良いでしょう。ただし、「寝る」だけはNGです。そうしないと多くの人が「寝る」と答えてしまうので…。ちなみに、この質問をすると「自分の趣味」や「家族との触れ合い」について答える傾向があります。次に「家事」でしょうか。希に「仕事」について答える人もいますが…

さて、今日の話は、仏教における有名な説話の1つなので、もしかしたら、どこかで聞いたことがある方もいるかもしれません。

4月は、学級経営の基礎作りをする時期です。今年のクラスを「他人を思いやる仲良し学級」にして「楽しい学校生活」を送るために、「自分たちはどうしたらいいか」各学級で具体的に考え、行動しやすいように、この話をしました。

担任時代、私は子供たちに、「情けは人の為ならず」という言葉は、「情け（他人への施し）は人の為にならない。」という意味ではなく、「人に情けをかけていけば、巡り巡って、自分に戻ってくるんだよ。」ということをお子たちに教えてきました。その考えこそが、仏教の世界における「因果」＝「原因があれば結果がある」です。その点では、この話は「因果」について教える際にも良い話だと言えます。学年・学級でも実態に合わせて、補足していただくと助かります。

さて、1週間が過ぎ、新学期の緊張感が緩んできて、少しずつ学級経営のほころびが子供たちの乱れとして表出してきます。ですから、学級経営方針を再確認して、学級のシステムを再度確立する良い機会と捉えて取り組んでいきましょう。

【資料】地獄と極楽の話

ある人が地獄と極楽の見物に出かけようと思ったりました。まず地獄へ行きました。すると、ちょうど大きな円卓を囲んで、大勢の人たちが食事をするところでした。その人々の姿は、娑婆（しゃば）に住む私共と変わりありませんでした。大きな円卓の真ん中にご馳走が山と盛られてあるので、普通の箸では届きません。皆がそれぞれに5～6尺（2m弱）もあるような長い箸を持っています。ところが、箸があまりにも長すぎて、折角挟んでも自分の口に運ぶことができません。しかも、人に食べられてなるものかとみんな我れ先になって、自分が食べることばかり考えるものですから、長い箸と箸が音をたてて交錯し、結局、ご馳走は卓上に散乱して、誰一人として食べることができませんでした。食べようとして食べ得ざる時、人の心は焔となって怒りの火を発するのです。

次に、その人は次に極楽を見に行きました。極楽も地獄も、人そのものの姿には、全く相違はありませんでした。食事の時になりました。大きな円卓の真ん中にご馳走が山のように盛られてあり、人々は長い箸を持っています。それもまた地獄と全く同じことでした。ところが、ここではその人々がそれぞれ、自分のお箸に挟んだご馳走を「これはおいしそうでございます。お一つ如何ですか。」と人の口へ運んであげていました。「結構な美味でございます。あなたさまも如何ですか。」と互いが互いに食べさせあっているのです。「有難うございます。お勿体ないこと。」と食事は実に和やかに進んで、みるみるうちにご馳走はなくなり、最後には「ありがとうございました。ご馳走さまでございました。」とみんな喜び合い、感謝し合いながら終わりました。